

出其の三十七出

葛城県の成立 古墳時代 日勢山古墳群の

(2)

性格②

文化財課 **2**60-1608

> しています。 420・42号墳は、丘陵から西に延びる 支尾根上に並んで築造 西寺田所在の巨勢山41 巨勢山古墳群中の一支群を構成 415 (図 1) さ 418

とする円墳との間には系譜関係は存 とこの5基の横穴式石室を内部主体 年以上もの時を経てそれを破壊して とから、擬姓的同族集団関係も考えた、破壊という行為を伴っているこ いわば葛城氏の時代の古墳です。 す。まず41号墳、 いるわけですから、70号墳、 77号墳は中期中葉の円墳と方墳で、 ちに築造されました。狭小な支尾根 とする円墳は、 にくいということになります。 仕しないと断言できるでしょう。 ていることが挙げられます。70号墳、 て存在した77号墳を破壊して築造し 仔在した70号墳を、 上に集中したため、 から7世紀初頭のごく短い期間のう この5基の横穴式石室を内部主体 かなり無理をして築造していま いずれも6世紀後葉 41号墳は先行して 421号墳も先行し 以下に示すよう 771号墳

2) などの副葬も知られますので、 匠の杏葉(馬の尻部分の装飾…写真して朝鮮半島製と見られる特殊な意 渡来系の人々が葬られたことが判り チュアカマド形土器、 いずれも鉄滓(鉄の鍛造時に出る力これら5基の横穴式石室墳には、 法を採らざるを得ませんでした。 号墳の横穴式石室は西方向に開口す 室は南向きに開口するのですが、 ス)が副葬されており、加えてミニ るという、異例ともいえる石室構築 銀製指輪、 418

るでしょう。

ざまなヒントを提供する支群といえ

**古墳群の性格を考えるうえで、さま** 

以上のようにこの支群は、

の背景には先行して存在した古墳を ということになります。また、 彼らは狭い支尾根上に限定した墓域 入って初めて古墳の築造を許された、 を定められたうえで、 には渡来系の人々が葬られ、 つまりこれら5基の横穴式石室墳 6世紀後葉に そして

2011.

けです。このため、

通常の横穴式石

室を開口させる必要が生じているわ 半行に切って、尾根の低い方向に石 項を築造しています。

そして尾根に

め、やむをえず山腹斜面に降りて古 を築造するスペースが無くなったた た48号墳の場合には、尾根上に古墳

また、5基のうち最後に築造され

巨勢山421号墳 写真1 横穴式石室奥壁部の遺物出土状況

【参考文献】『巨勢山古墳群』 Ⅲ、 2002年、 御所市教育委員会

藤田 和尊



巨勢山421号墳出土 写真2 忍冬楕円文心葉形杏葉

も判ります。

とを許した「権威」が存在したこと